

「素直な心」を大切に

「素直な心」とは進歩の親です。素直な心があればこそ、人間は、成長、進歩していくからです。

この「素直な心」の大切さを説かれたのは、松下幸之助さんでした。幸之助さんは小学校さえも満足に行かれていないのに、松下電器(現パナソニック)という大企業をつくり上げられました。その原動力とは、まさに素直な心なのです。

素直な心とは、自分自身のいたらなさを認め、そこから努力を始めるという謙虚な姿勢のことです。

とかく能力のある人ほど、人の意見を聞かず、たとえ聞いても反発するものです。しかし本当に伸びる人は、素直な心を持って人の意見をよく聞き、常に反省し、自分自身を見つめることのできる人です。

自分にとって耳の痛い言葉こそ、自分を伸ばしてくれるものだとして受け止める謙虚な姿勢が必要です。」

稲盛 和夫

昨年8月に亡くなられた稲盛和夫さんの箴言(しんげん)は、これまでもマネージャー会議の場で何回かご紹介してきました。ご承知のように、稲盛さんは、京セラ、第二電電(現 KDDI)の創業者で、晩年には、一時経営破綻していた日本航空の再建にも尽力されました。技術者出身として、現状に甘んぜず、常に変革を志向した稀代の経営者であり、ビジネスや人生における数々の箴言を残され、日本のみならず、海外にも数多くの信奉者がいるようです。

さて、稲盛さんは、ここで「素直な心とは、自分自身のいたらなさを認め、そこから努力を始めるという謙虚な姿勢」と述べておられます。また、「本当に伸びる人は、素直な心を持って人の意見をよく聞き、常に反省し、自分自身を見つめることのできる人です」とも述べておられます。

この「素直な心」というのは、「従順な心」とは違うと思います。従順に何でも言うことを聞くということではなく、自分の意見は持った上で、他者の意見に無心に向き合う姿勢であり、自らに非があればそれを正すことができる謙虚な態度ではないでしょうか。稲盛さんの人生を見ると、既成の概念や体制等に挑戦し続けた生涯であり、強い信念をお持ちの方と推察しており、そうした方の言葉だからこそ余計に重みがあります。

ところで、最近「論破」という言葉をよく目にします。自己の意見を主張するのは良いのですが、他者の意見を真摯に傾聴し、謙虚にそれを受け止めることもしないで、勝ち負けのように議論をするのは非生産的であり、今の世の中には、まさにこの箴言の精神が求められているのではないのでしょうか。

繰り返しになりますが、「素直な心」とは、「自分自身のいたらなさを認め、そこから努力を始めるという謙虚な姿勢」と考えられますので、例えば、事業の進め方の検討を行う際などに、仮に自分と異なる意見だとしても、法令違反にあたるなど客観的で明確な事由がある場合などを除き、こうした姿勢や態度で受け止められるよう努めていくことが仕事を進める上でとても大事なことではないかと思います。

令和5(2023)年9月



一般財団法人 かながわ水・エネルギーサービス
理事長 松井 聡 明